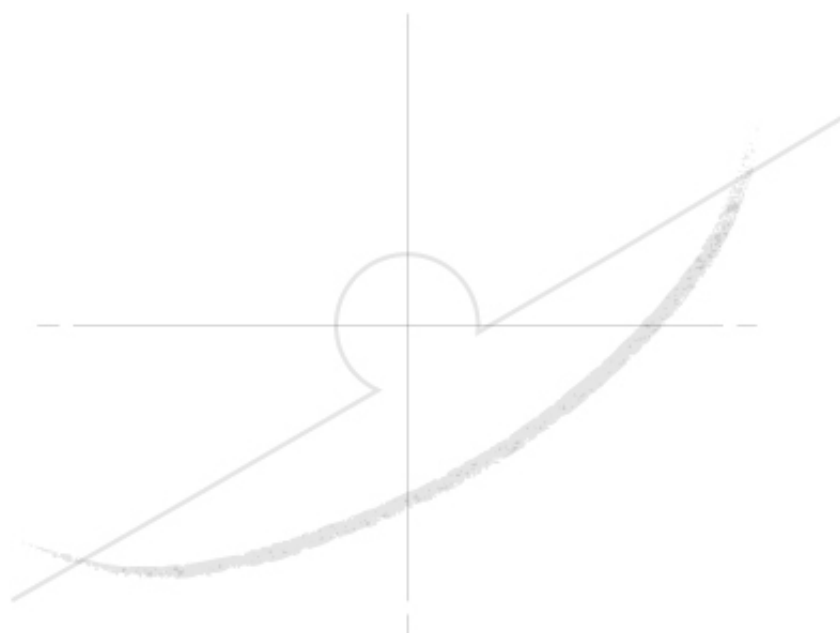


2010年度中間報告書



sarntec



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、ここに、平成23年3月期第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の業績ならびに当社グループの取り組みなどにつきまして、ご報告申し上げます。

当社事業を取り巻く環境は、依然として、厳しい状況が続いておりますが、当社は、光技術のパイオニアとして今後も光技術の発展に寄与してまいります。株主の皆様におかれましても、一層のご支援とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年11月
santec株式会社 代表取締役社長

鄭 台 鎬

経営成績

当第2四半期連結累計期間（以下、「当第2四半期」）におけるわが国経済は、景気回復に向けた展開こそみられるようになったものの、欧州を中心とする世界経済に不安要因が残っていること、円高が急速に進んでいることなどから、先行き不透明感を感じさせる状況が続きました。

当社グループが属する光通信市場においては、2008年秋以降に急減速した設備投資が回復をはじめました。スマートフォン等の流行などに起因して、データ通信量の劇的な増加が続いており、モバイル通信網の増強、高速大容量通信の需要が高まっていること、中国において通信の光化が進行していることなどが、主な要因です。その一方で、顧客からの製品単価引き下げ要求は依然として強く、利益の確保には相当の努力が必要となっているのが現状です。

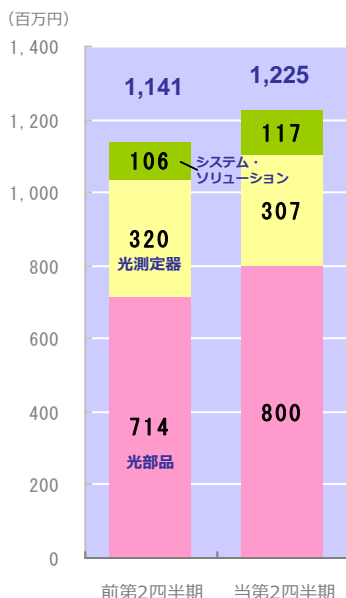
このような状況の中、当社グループは、平成23年3月期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の基本方針として、「市場ニーズの先取りとスピーディな事業展開」を掲げ、事業活動を展開しております。当社グループの当第2四半期の連結売上高は1,125百万円となり、前第2四半期連結累計期間（以下、「前第2四半期」）と比較して84百万円、7.4%の増加となりました。通信関連設備投資が回復傾向にあり、光部品の販売数量が増加したこと、光部品製造工程向けの光測定器の売上が増加したことなどが、その主な要因です。

売上高増加に加え、原価低減活動を一層推進したこと、粗利益率の高い光測定器製品の売上高が回復したことなどにより、当第2四半期の売上総利益は437百万円と、前第2四半期（356百万円）より22.7%の増加となりました。

当社グループの取組む研究開発について、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（略称「NEDO」）及び、独立行政法人情報通信研究機構（略称「NICT」）より、相次いで助成事業採択を決定いただきました。当社グループでは、採択事業に対する研究開発費を大幅増額して対応しましたが、一方で、一層の経費節減に取り組みました。この結果、当第2四半期の営業損失は64百万円（前第2四半期は同161百万円）となりました。

急速に進展した円高による為替差損109百万円の計上により、当第2四半期の経常損失は172百万円（前第2四半期は同204百万円）となりました。

資産除去債務会計基準の適用に伴う影響で5百万円の特別損失が発生したこと、特別利益として、取締役退職慰労金制度の改定による役員退職慰労引当金戻入額79百万円の発生があり、当第2四半期の四半期純損失は97百万円（前第2四半期は同204百万円）となりました。



事業別セグメント

① 光部品関連事業

当第2四半期の売上高は800百万円と、前第2四半期（714百万円）より12.1%の増加となりました。通信設備投資が回復を始め、光部品の需要も増加傾向となったことで、売上高が回復したものです。

② 光測定器関連事業

通信設備投資の回復や、中国における通信光化の急速拡大を背景に、製造ライン向け光測定器製品の売上が増加いたしました。一方で、医療用・工業用に幅広く活躍が期待されているOCT（Optical Coherence Tomography = 光干渉断層画像）関連製品については、多方面から引き合いを頂いているものの、製品として実用化されるまでには一定の開発工程を要するものが中心であり、前第2四半期と比して売上高が減少しております。その結果、当第2四半期の売上高は前第2四半期（320百万円）より3.9%減の307百万円となりました。

③ システム・ソリューション事業

ソフトウェア販売について、一部の顧客で経費引き締め等の動きが見られていることに対し、きめ細かなフォローアップにて対応いたしました。この結果、当第2四半期の売上高は117百万円と、前第2四半期（106百万円）に比して9.6%の増加となりました。

連結損益計算書 (6ヶ月)

(単位 千円)

	前第2四半期	当第2四半期	前 期
	H21.4.1~9.30	H22.4.1~9.30	H21.4.1~H22.3.31
売上高	1,141,376	1,225,470	2,449,063
売上原価	785,008	788,252	1,633,528
売上総利益	356,367	437,218	815,535
販売費及び一般管理費	517,662	501,999	1,005,825
営業利益または営業損失	△161,295	△64,781	△190,289
営業外収益	10,395	25,504	36,150
営業外費用	53,717	132,925	64,992
経常利益または経常損失	△204,617	△172,202	△219,062
特別利益	592	85,319	1,458
特別損失	75	5,950	3,891
税金等調整前四半期純利益 (または四半期純損失)	△204,101	△92,832	△221,495
法人税等	602	5,036	3,913
四半期純利益 (または四半期純損失)	△204,704	△97,869	△225,408

連結貸借対照表

(単位 千円)

	前 期	当第2四半期
	H22.3.31現在	H22.9.30現在
資産の部		
流動資産	2,607,007	2,732,026
固定資産	4,786,825	4,459,102
資産合計	7,393,833	7,191,129
負債の部		
流動負債	352,856	404,196
固定負債	443,641	384,783
負債合計	796,497	788,979
純資産の部		
株主資本	6,668,158	6,570,289
評価・換算差額等	△70,823	△168,139
純資産合計	6,597,335	6,402,149
負債・純資産合計	7,393,833	7,191,129

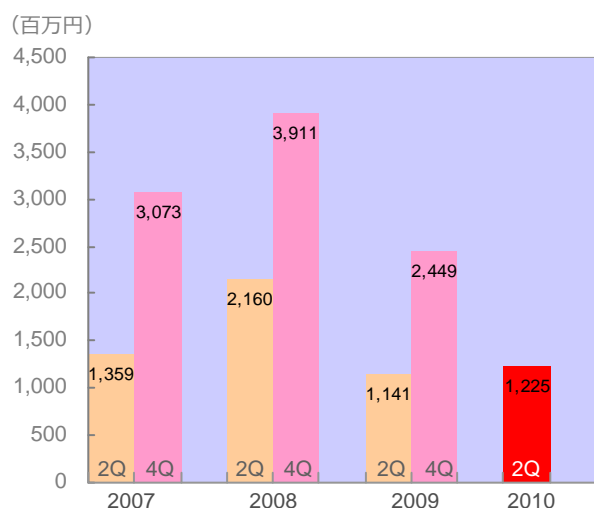
連結キャッシュ・フロー計算書 (6ヶ月)

(単位 千円)

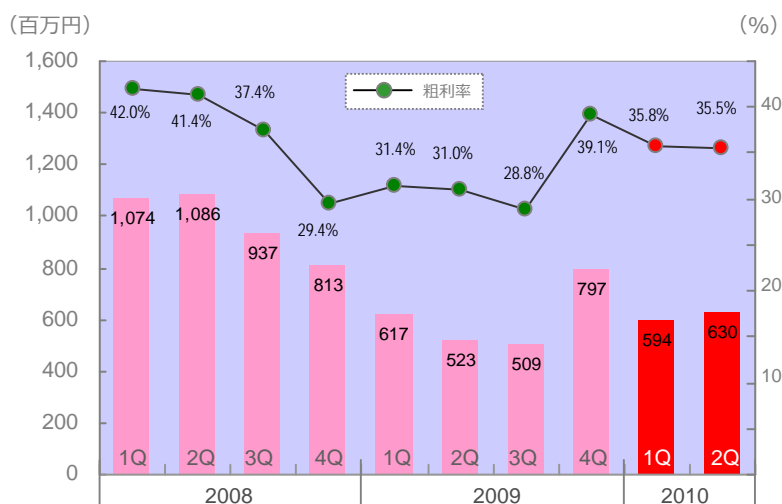
	前第2四半期	当第2四半期
	H21.4.1~9.30	H22.4.1~9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	176,091	△6,505
投資活動によるキャッシュ・フロー	△232,419	187,417
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,728	△1,761
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33,289	△125,801
現金及び現金同等物の増減額	△91,347	53,348
現金及び現金同等物の期末残高	1,341,464	1,593,949



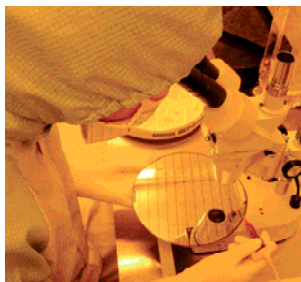
■ 連結売上高の推移



■ 四半期業績推移 (売上高と粗利率)



トピックス



次世代液晶技術 LCOS を利用した開発が進んでいます

当社では、このたび次世代液晶技術である、LCOS（Liquid Crystal On Silicon）を自社生産するための設備の導入を完了し、量産が可能な体制を確立いたしました。

同技術は光通信部品に対して、非常に幅広い応用が可能であるとして期待されているほか、光通信に限らず、様々な分野での活躍も見込まれています。

当社グループでは、次の世代の柱となる新製品開発に取り組んでいるところです。

LCOS 搭載光部品の新製品



光通信における「交差点」で信号を制御するROADM装置として、LCOS技術を適用した波長プロセッサアレイの新製品を発表しました。

世界初のLCOS搭載波長プロセッサアレイ製品です。

※ROADM・・・Reconfigurable Optical Add Drop Multiplexer=再構築可能光分岐挿入装置。複数の波長の光を組み合わせることで、光信号を電気信号に変換せずにやりとりすることを実現し、高速大容量通信を可能とします。



光ファイバを用いた温度管理システムを発売しました

大型装置や、建築物に1本の光ファイバを敷設するだけで、1m間隔で、きめ細かな温度監視を実現する装置「DTS」（Distributed Temperature Sensing）の販売を開始しました。

光ファイバそのものがセンサー&伝送路の役割を果たすため、設置・維持管理が容易で、悪条件下での使用に堪えるのが特徴です。

2 機構から、助成事業の採択決定をいただきました

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（略称「NEDO」）の平成22年度「イノベーション推進事業」に係る助成事業、及び、独立行政法人情報通信研究機構（略称「NICT」）の平成22年度「先進技術型研究開発助成金助成対象事業」に係る助成事業で、それぞれ、採択決定をいただきました。

当社の目標とする先進的な2つの研究テーマについて、最大で、年間合計1億3,100万円の助成をうけるという内容です。当社では、これらの助成をテコに、研究開発活動を一層加速し、早期に新製品を送り出して、光技術のレベルアップに寄与し、高速大容量通信の課題解消に貢献してまいります。



採択事業名：

「先進的LCOSプロセッサを用いた次世代ROADM装置用チューナブルフィルタ・アレイの研究開発」



採択事業名：

「LCOSプロセッサを用いた高速大容量光スイッチの実用化開発」

地域の皆様とともに環境保全に取り組んでいます



当社は愛知県小牧市を本拠地としておりますが、当社の事業活動は地域社会の皆様のご理解のうえに成り立っていると考えております。

本年も、全社員が参加し、地域の皆様・周辺企業の皆様と合同で、清掃活動を行いました。

これからも様々な形で地域社会との関わりを大事にしていきたいと考えております。